

地域の防災力向上に向けた 防災活動の手引き

～ 一般向け ～



地域の防災力低下が叫ばれている今、

住民一人ひとりが防災意識を高め、

「自分や地域のことは自分たちで守る」ための行動を起こす必要があります。

この手引きをきっかけとして、災害に負けない強い地域社会を

自分たちの手で築いていくための一助となれば幸いです。

平成 23 年 8 月
三六災害50年実行委員会

(1) はじめに

この手引きでは、地域での防災意識を高いレベルに引き上げ、そのレベルを維持し、災害発生時にも地域住民の皆さんが冷静に適切な行動がとれるよう、防災活動に関する活動プログラムを整理しました。

内容は、地域住民の皆さんを対象とした一般向けに設定されています。また、活動プログラムによる学習の効果をより高めるために、この手引きには以下の資料が付属されています。

[付属資料]

1. 「三六災害」は、どんな災害だったのか？
2. 三六災害から学ぶ、地域の防災力向上の大切さ
3. 伊那谷で発生した水害・土砂災害の足跡マップ

=本資料コンテンツ=

(1) はじめに	1
(2) 活動プログラムの構成	2
(3) 活動プログラム実施の流れ	2
(4) 活動プログラム	5
活動プログラム 1 災害足跡見学会	6
活動プログラム 2 災害伝承座談会	11
活動プログラム 3 災害 DVD 視聴会	13
活動プログラム 4 防災有識者による講習会	15
活動プログラム 5 地域防災講習会	17
活動プログラム 6 集落防災マップづくり	19
活動プログラム 7 集落防災訓練—地区の催しと組み合わせた防災訓練—	22
(5) 活動のアピール	25
(6) 活動を円滑に進めるための情報・資料	27

(2) 活動プログラムの構成

天竜川上流における地域の防災力を高めるために、三六災害 50 周年を機に、まずは地域防災への意識高揚と定着を図ることが肝要です。そして、今後取り組む地域防災活動によって、55 周年、60 周年…と時期を重ねるごとに地域防災力が高まるよう、一過性の取組みに終わらず、取組みを継続させることが必要です。

そこで、地域の防災力向上に高い効果が得られると考えられる内容について、導入、発展、自発という 3 段階をふんだ具体的な活動プログラムについてまとめました。

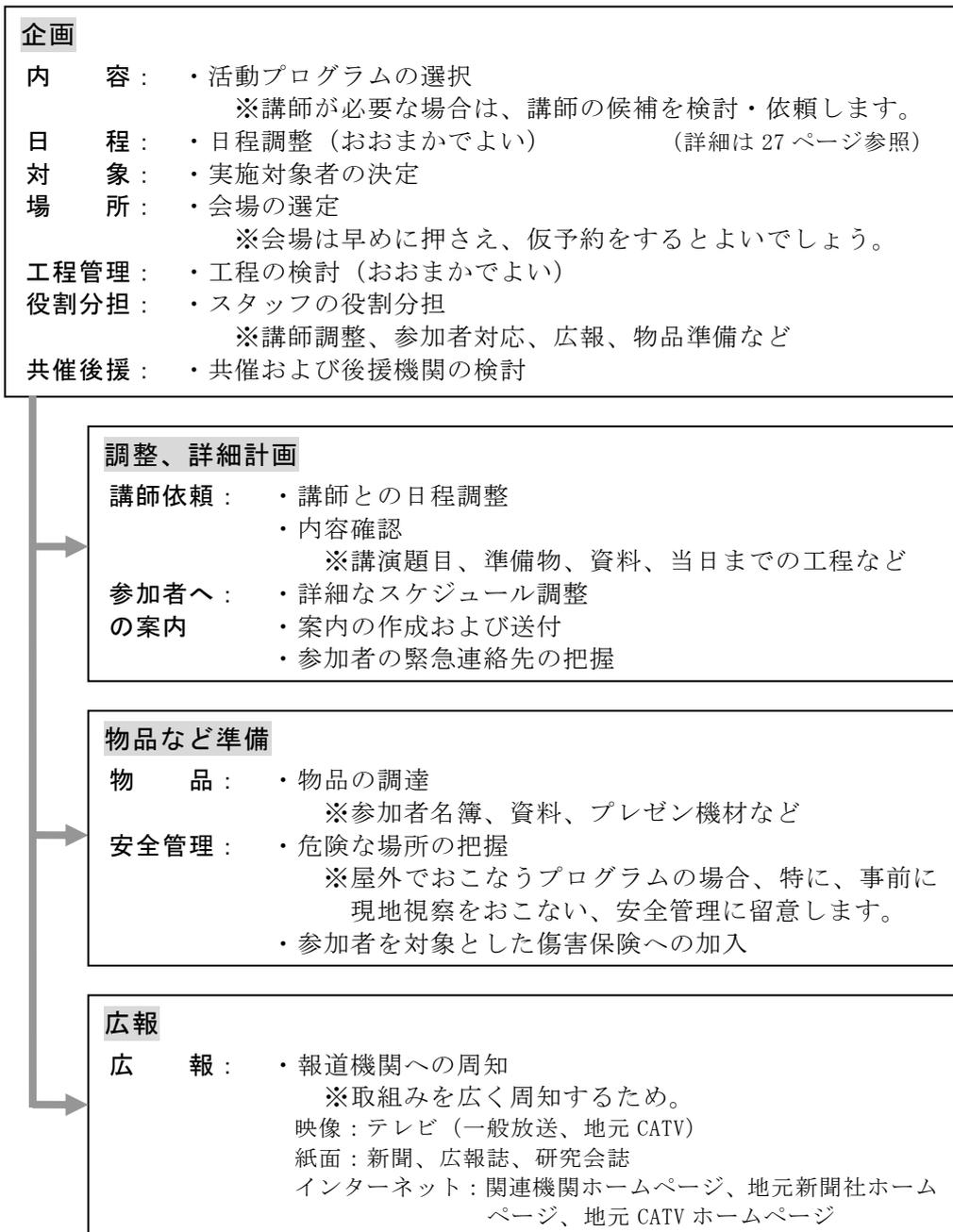
■一般向け活動プログラムの内容

取り組み段階	活動プログラム	内容と期待できる効果
STEP. 1 導入段階（きっかけづくり） ＊個人意識向上	地域防災初歩講座 ・災害足跡見学会 ・災害伝承座談会 ・災害 DVD 視聴会	<ul style="list-style-type: none"> ・三六災害の跡地の訪問や、被災経験者や防災技術者から、地形・地質と災害との関連、被害当時の状況を学ぶ ・ふだん意識しない災害を強い印象でうけとめ、個人の防災意識を高めることが期待できる
STEP. 2 発展段階（モチベーションの向上） ＊個人→地域への取り組み主体の発展（地域リーダーの育成）	防災リーダー養成講座 ・防災有識者による講習会 ・地域防災講習会	<ul style="list-style-type: none"> ・区長などを「防災リーダー」として位置づけ、毎年 1 回、防災リーダー養成講座を実施する ・区長は概ね毎年交代するため、防災知識・意識を備えた人材が地域で増え、「地域」での取り組み展開の具体的なきっかけとして期待できる
STEP. 3 自発段階（取組みの継続） ＊地域での自発的取り組み	地域防災ワークショップ ・集落防災マップづくり ・集落防災訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・ある地域（地区）において、住民が参加するワークショップを開催し、住民によるハザードマップ点検、防災訓練などの防災計画立案と実行をする ・防災を自らのこととして強く意識付け、自発的な取り組みへの発展が期待できる

(3) 活動プログラム実施の流れ

実際に活動プログラムを実施する際、大きく次のような流れで企画・運営します。当日までの準備、行程の確認、関係者への連絡・周知、不測の事項も考慮した準備など、活動プログラムの内容を実施するまでの準備を十分に整えておくことが肝要です。また、終了時は、漠然と終わるのではなく、次の活動プログラムにつながるような『ふりかえり』をおこなうことも重要です。

■ 準備編



[運営のコツ] ~会場選び~

- 参加者が一体になれるような広さの会場を選びます。
- 駐車場を十分確保できるような会場を選びます。



■ 当日編

当日準備

- スタッフ ・ 当日の流れ、役割などの確認
 打合せ：
 会場準備： ・ プログラムにあわせた会場設営
 ・ 会場までの誘導表示



導入部

- 受付： ・ 出欠の確認
 開会： ・ 開催の主旨、注意事項などの伝達
 行程説明： ・ 当日の予定の具体的な説明
 ※特に、「解散する時間」についてはしっかり伝えることで、参加者は目標をもって参加できます。
 ※野外的場合は、トイレ休憩の時間・場所も伝えます。
 自己紹介： ・ 出席者同士の交流
 ※名前だけでなく、出身地、参加の動機などを短くお話いただきます。



プログラム内容の実施

- 進行管理： ・ プログラムの進行が時間通りに進行できるよう十分注意
 参加者配慮： ・ 時間の遅れ、特に終了時間の遅れへの配慮
 安全管理： ・ 開会前の十分な危険予知活動の実施



終了（まとめ）

- ふりかえり： ・ プログラム全体のふりかえり
 ・ 参加者から感想、今後の抱負の発表
 閉会： ・ 参加者への感謝の伝達
 ・ 今後の活動参加へのお願い

【運営のコツ】 ～会場設営～

■ 講義タイプ

- 席は、集中して講義を聴講できるように配置します。
- 会場の広さに合わせて、机を配置しない場合もあります。



■ 意見交換・ワークショップタイプ

- 参加者が緊張しないよう、会場全体が打ち解けた雰囲気になるよう工夫します。
- 席は、参加者が和気あいあいと意見交換したり、アイデアをだしたりできるような配置にします。



(4) 活動プログラム

活動プログラムについて、実施場所と対象者で整理し、次のようにまとめました。
また、具体的な個別の活動プログラムの内容を、次ページ以降で示します。

表 活動プログラム一覧

プロセスと目標	活動プログラム (次ページ以降詳細)	実施場所		対象	
		屋内	屋外	リーダー	一般
個人 STEP. 1 導入段階(きっかけづくり) * 個人の意識向上	地域防災初歩講座				
	活動プログラム 1 災害足跡見学会	△	○		○
	活動プログラム 2 災害伝承座談会	○			○
STEP. 2 発展段階(モチベーションの向上) * 個人→地域への 取り組み主体の発展 (地域リーダーの育成)	防災リーダー養成講座				
	活動プログラム 4 防災有識者による講習会	○		○	○
	活動プログラム 5 地域防災講習会	○		○	
組織 (地域) STEP. 3 自発段階(取組みの 継続) * 地域での自発的 取り組み	地域防災ワークショップ				
	活動プログラム 6 集落防災マップづくり	○	○		○
	活動プログラム 7 集落防災訓練		○		○

地域防災初歩講座

活動プログラム1 災害足跡見学会

プログラム概要

三六災害の時に被災した現地を訪問し、災害の爪跡、復興した姿、慰霊碑などを見学します。さらに、被災者や技術者、有識者から被災当時の話を聞きます。



被災状況を現地で聞く

[ねらい]

- ・参加者が現地に立つことで、災害が現実のことであること実感いただくことができます。
- ・参加者間の交流が深まり、個人の気づき⇒組織の活動の動機付けになることが期待できます。

- 【実施対象】 地域住民（30人程度）
- 【所要時間】 半日 ※地域の実情に合わせて適宜調整できる
- 【実施場所】 被災地 ※地域ごとに設定できる（付属資料3参照）

■準備物（運営者）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	参加者名簿	<input type="checkbox"/>	*液晶プロジェクター
<input type="checkbox"/>	名札	<input type="checkbox"/>	*ノート PC
<input type="checkbox"/>	三六災害パネル (必要に応じて)	<input type="checkbox"/>	*スクリーン
		<input type="checkbox"/>	救急用具
<input type="checkbox"/>	拡声器	配布資料など	
<input type="checkbox"/>	記録用デジカメ	<input type="checkbox"/>	現地行程表
<input type="checkbox"/>	小型バス	<input type="checkbox"/>	付属資料 1
<input type="checkbox"/>	ヘルメット(場所による)	<input type="checkbox"/>	付属資料 3
<input type="checkbox"/>	クリップボード	<input type="checkbox"/>	アンケート
<input type="checkbox"/>	ボールペン		

* 室内説明がある場合

■参加者持物

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具
<input type="checkbox"/>	雨具
<input type="checkbox"/>	運動靴か長靴
<input type="checkbox"/>	帽子

【運営のコツ】 ~移動手段について~

- 参加者数が十数人と少なければ、小型乗用車での乗り合いでも運営できます。一方、乗用車が3台以上になるようであれば、移動をスムーズに運営することができるため、小型バスがよいでしょう。
- バスの場合は、車内でも意見交換ができ、参加者間での交流のキッカケができます。
- また、現地は狭い路地になっている場合もあるため、小型バスの方が移動はスムーズです。



■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
事前	講師の依頼	<ul style="list-style-type: none"> 講師の依頼は、必要に応じて国土交通省天竜川上流河川事務所砂防調査課に問い合わせることができます。 ※詳細については27ページ参照
導入	受付	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて会場にパネルを設置し、参加者の気持ちを高揚させます。
	開会	<ul style="list-style-type: none"> 開催主旨、講師・語り部の方を紹介します。
足跡見学会内容	概要説明（室内） …附属資料1 ◆災害一般知識の共有（必要に応じて実施） 三六災害を中心に、天竜川上流域でこれまで発生した災害の概要（被災歴、被災地、被害状況など）とそのメカニズムについて説明します。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内説明は、見学会に設定できる時間の有無によって適宜実施します。移動中のバスの中でもその内容を補うことができます。 災害一般知識の説明は、防災技術者、防災有識者に「講師」として話題提供いただくことで、深い理解を得ることが期待できます。
	現地見学（屋外） …附属資料3 ◆被災地見学 被災地を訪問し、その当時の様子を参加者みんなで聞きます。 	<ul style="list-style-type: none"> 附属資料3の災害足跡マップに掲載された写真と、現在の様子を見比べていただくと、その当時の悲惨な状況が理解しやすくなります。 参加者の中で、その当時のことを知っている方がおられたら、少しお話を伺うと、その当時のことより深く実感できます。 バスの移動時間が長い場合、災害当時の様子の語りを視聴します。
	◆慰霊碑見学 被災地にある慰霊碑も、その慰霊碑がどのような意味を持つものか、説明します。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞くことだけに留めず、語ってくださった被災者に質問を投げかけることで、より深く、災害の深刻さを共有できます。 防災技術者または有識者に出席いただいている場合、被災者の話の一部を科学的に深い理解を得ていただくことができます。 <p>※地元でどのような慰霊碑があるか、また、どのようないきさつがあるのか、予め調べておきます。</p>
まとめ	ふりかえり ・感想発表 ・今後、自分がどのように行動するか発表 ・アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 本日の感想や今後の抱負について、参加者に発言いただきます（数人、指名します）。 参加者が自ら言葉を発することで自らの意識付けになります。
	閉会	<ul style="list-style-type: none"> 今後の予定などを伝え、閉会します。

※司会進行は、市町村担当者や地域の防災リーダーがおこないます。

足跡行程例（1） 飯田市内の天竜川沿いをめぐるコース

天竜川の氾濫によりあたり一帯が水に浸かった川路や松尾・下久堅、山麓部で大規模な土石流が発生した野底川周辺をめぐるコースです。

場所	所用時間
天竜川総合学習館「かわらんべ」 受付・開会・概要説明	15分
●川路	30分
↓（移動）	10分
●松尾・下久堅	30分
↓（移動）	20分
●野底川・飯田松川	30分
↓（移動）	30分
天竜川総合学習館「かわらんべ」 ふりかえり・閉会	15分

所要時間合計 180分（3時間）

※移動には車両使用を想定

松尾・下久堅

川の幅が狭い弁天と鷲流峡に挟まれ、川の水があふれやすい場所、三六災害時も、下流の鷲流峡で天竜川がせき上げられた。天竜川は水かさを増し、弁天神社両側の堤防が決壊した。濁流は主に松尾方面へ流れ込み、広い範囲で家屋や田畑が流失した。

野底川・飯田松川

野底川では、市街地を大量の土砂が流れ下り、2階のひさしまで土砂に埋まった家もあった。上流では川沿いの製綿工場が流され、7名が亡くなった。一方、飯田松川では、大雨が降ったにもかかわらず、野底川と比較して被害は少なかった。

川路

土砂を含んだ洪水が、下流の天竜峡でせき上げられて氾らんし、広い範囲が水に浸かった。川路駅前では、地上から3～4mの高さまで水位が上昇し、以前からたびたび浸水していた旧川路小学校も、2階まで水に浸かった。

足跡行程例（2） 小渋川沿いをめぐるコース

大型崩壊の起こった大西山、土石流の発生が多かった鹿塩川、集落全体が被害を受けた四徳をめぐるコースです。

場所	所用時間
大鹿村中央構造線博物館 受付・開会・概要説明	15分
●大西山 ↓（移動）	30分 20分
●鹿塩川 ↓（移動）	30分 30分
●四徳 ↓（移動）	30分 20分
大鹿村中央構造線博物館 ふりかえり・閉会	15分

所要時間合計 190分（3時間10分）

※移動には車両使用を想定

四 徳



各所で土砂崩れが発生し、土石流が繰り返し集落を襲った。その結果、7名が死亡、61戸が被災した。災害前は84戸434名が生活していたが、集団移住をよぎなくされた。



大西山

鹿塩川



豪雨による土石流で、鹿塩川近くにあった北川分校はいち早く破壊された。また、西山の地すべり崩壊や大花沢からの土石流で鹿塩川の河床が上がり、川沿いの家屋39戸が土砂の下に埋まった。



堅いが割れ目が発達しやすい岩石からなり、雨水の浸透によって不安定になった斜面は、幅500m、高さ450m、厚さ15mにわたって大きく崩れた。風圧と押し寄せる土砂によって、39戸が全壊し、42名の命が奪われた。

足跡行程例（3） 上伊那地域をめぐるコース

上流の至る所でがけ崩れが発生した新宮川、森林鉄道や集落が流失した三峰川上流、堤防が決壊した松島北島をめぐるコースです。なお、新宮川と三峰川上流は三六災害の被災地、松島北島は平成 18 年災害の被災地です。

場所	所用時間
駒ヶ根市民俗資料館 受付・開会・概要説明	15 分
●新宮川	30 分
↓（移動 県道 49 号は冬期通行止）	30 分
●三峰川上流	30 分
↓（移動）	60 分
●松島北島	30 分
↓（移動）	50 分
駒ヶ根市民俗資料館 ふりかえり・閉会	15 分

所要時間合計 260 分(4 時間 20 分)

※移動には車両使用を想定

松島北島



各地の水位観測所で警戒水位を超え、伊那市、箕輪町、南箕輪村では約3,160世帯に避難勧告が発令された。箕輪町松島北島地区では、堤防が100m以上にわたって決壊した。



三峰川上流



孤立沢や熊堂沢で土石流が発生し、戸草や市野瀬の集落に大きな被害をもたらされた。市野瀬では、県道を濁流が流れ、家屋半壊1戸、床下浸水5戸などの被害が生じたほか、伊那里小学校の校庭には、1m余りの土砂が堆積した。戸草では、河川の氾濫で家屋全4戸や森林鉄道が流失した。

新宮川



上流でがけ崩れが約390か所で発生し、土砂が新宮川に一気に流れ込んだ。そのため、死者5名、被災人員558名に及ぶ人的被害となり、家屋や発電所の倒壊、橋の流出など建物にも被害が生じた。

地域防災初歩講座

活動プログラム2 災害伝承座談会

プログラム概要

三六災害の被災者や技術者、有識者から、自分たちの住む地区や周辺のごく身近な地域で発生した災害の話聞き、意見交換します。

[ねらい]

- ・参加者に、自分の身の回りや家族に降りかかるかもしれない、という緊迫感を得ていただきます。
- ・地域での発展的な取り組みにつながるよう、「意識の高い個人」を地域に増やします。



被災体験をみんなで聞く

- 【実施対象】 地域住民（30人程度）
- 【所要時間】 2時間～3時間
- 【実施場所】 集落（地区）

■準備物（運営者）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	参加者名簿	<input type="checkbox"/>	茶菓
<input type="checkbox"/>	名札		
<input type="checkbox"/>	三六災害パネル (必要に応じて)		
<input type="checkbox"/>	液晶プロジェクター (必要に応じて)	配布資料など	
<input type="checkbox"/>	ノートPC (必要に応じて)	<input type="checkbox"/>	付属資料1
<input type="checkbox"/>	スクリーン (必要に応じて)	<input type="checkbox"/>	アンケート
<input type="checkbox"/>	記録用デジカメ		

■参加者持物

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具

[運営のコツ] ～プレスリリースと映像記録～

- 取組みを広く周知し、また、参加者の意識高揚のため、取組み内容を報道いただくよう座談会の実施を報道機関に周知します。
- 座談会でのお話は、今後、貴重な資料になりえます。座談会の様子を音声と映像に記録することで、今後の防災教材の資料として利用できます。



■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
事前	講師・語り部の依頼	<ul style="list-style-type: none"> 講師・語り部の依頼は、必要に応じて国土交通省天竜川上流河川事務所砂防調査課に問い合わせることができます。 ※詳細については27ページ参照
導入	受付	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて会場にパネルを設置し、参加者の気持ちを高揚させます。
	開会	<ul style="list-style-type: none"> 開催主旨、講師・語り部の方を紹介します。
座談会内容	災害の一般説明 ……付属資料1 ◆災害一般知識の共有 具体的な災害体験を聞くまでに、三六災害を中心に、天竜川上流域でこれまで発生した災害の概要（被災歴、被災地、被害状況など）とそのメカニズムについて説明します。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害一般知識の説明は、防災技術者、防災有識者に「講師」として話題提供いただくことで、深い理解を得ることが期待できます。 <p>※さらに、第三者が司会者として進行することで、進行がスムーズになります。</p>
	被災体験の語り聞き ◆語り聞き 実際に被災された方のお話をみんなで聞きます。 	<ul style="list-style-type: none"> 被災体験がより生々しく伝わるよう、その当時の画像や映像などがあれば、スクリーンを通じてみていただけるよう、語り部の方のサポートをします。 語り部の方と聞く側の緊張をとくため、お茶、茶菓などを準備すると、スムーズに進行できます。
	◆意見交換 災害体験者－講師－参加者で意見交換をします。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴衆が、話を聞くことだけに留めず、語ってくださった被災者に質問を投げかけることで、より深く、災害の深刻さを共有できます。 防災技術者または有識者に出席いただいている場合、被災者の話の一部を科学的に補足説明いただくことで、参加者に深い理解を得ていただくことができます。 ※発言の偏りが無いよう、司会者が意見調整します。
まとめ	ふりかえり ・感想発表 ・今後、自分がどのように行動するか発表 ・アンケート	<ul style="list-style-type: none"> 本日の感想や今後の抱負について、参加者に発言いただきます（数人、指名します）。 参加者が自ら言葉を発することで自らの意識付けになることと、情報提供した被災者も「伝えた」実感を得ることができます。
	閉会	<ul style="list-style-type: none"> 今後の予定などを伝え、閉会します。

※ 司会進行は、市町村担当者や地域の防災リーダーがおこないます。

地域防災初歩講座

活動プログラム3 災害 DVD 視聴会

プログラム概要

三六災害の様子を演劇化した内容の DVD を参加者とともに視聴します。

視聴のみに留めず、視聴を通じて感じたこと、自分に何ができるか、などを話しあう場を設けます。

[ねらい]

- ・災害を受けたときの「感情」を演劇を通じて得ることで、災害の悲惨さを実感できます。
- ・視聴を通じて感じたことを参加者（集落の方々）で共有することで、次の活動の参加を促します。



DVD をみんなで視聴する

【実施対象】 地域住民（30 人程度）

【所要時間】 1.5 時間程度

【実施場所】 集落（地区）

■ 準備物（運営者）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	演劇（DVD） 「演劇的記録三六災害五十年」	<input type="checkbox"/>	茶菓
<input type="checkbox"/>	参加者名簿	<input type="checkbox"/>	*ホワイトボード
<input type="checkbox"/>	名札	<input type="checkbox"/>	*付箋紙（3 種類程度）
<input type="checkbox"/>	三六災害パネル （必要に応じて）	<input type="checkbox"/>	*マジック（人数分）
<input type="checkbox"/>	液晶プロジェクター	配布資料など	
<input type="checkbox"/>	スピーカー	<input type="checkbox"/>	付属資料 2
<input type="checkbox"/>	ノート PC（DVD 再生）	<input type="checkbox"/>	アンケート
<input type="checkbox"/>	スクリーン		
<input type="checkbox"/>	記録用デジカメ		

■ 参加者持物

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具

* 発展的プログラムがある場合

[DVD] 演劇的記録三六災害五十年

作：ふじたあさや

内容：災害発生を伝え、応援を請うためにダムの導水管を必死になって通った話、災害によって孤立した集落との通信手段を機転を利かせて確保した話など、実際にあったことを芝居、語り、合唱、映像によるコラボレーションで表現しています。

出演：演劇集団「演劇宿」、大鹿村の方々、天竜川上流河川事務所職員

■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
導入	受付	・必要に応じて会場にパネルを設置し、参加者の気持ちを高揚させます。
	開会	・開催主旨、DVDの紹介をします。
DVD視聴会内容	災害の一般説明とDVDの視聴 ◆災害一般知識の共有 DVDの視聴の前に、三六災害に関する概要(被災歴、被災地、被害状況など)についてDVD付属の補足説明資料を元に解説し、その後、DVDを視聴します。 	・資料の説明は10分程度にとどめ、速やかにDVD視聴に移ります。 ※参加者は、DVD視聴を期待して参加しているため、長い話が前置きであると、話を聞くことで疲れ、緊張感をそいでしまいます。
	※発展的なプログラム(必要に応じて実施) 「感じたこと」の意見交換 ◆意見の抽出 参加者に予め色つきの付箋紙を渡しておき、意見を書き込んでいただき、DVD視聴後、ホワイトボードなどに張っていただきます。  ◆意見交換 出された意見を発表し、参加者が感じたことを共有します。 	・視聴(受身的)に留めず、自ら前にでて意見を張る(積極的)ことで、参加者にはあまり大きな負担にならず、思ったことを出していただけれます。 ・DVDを見ながら感じたことを、例えば次のような区分で書いていただきます。 赤の付箋紙…共感したこと 黄の付箋紙…よかったと思ったこと 青の付箋紙…今後自分ができること ※太いマジックで大きく書いていただきます。 ・進行係は、ホワイトボードに張られた意見を整理します(類似した意見をグルーピングします)。 ・整理した後、書かれた意見を読みながら、参加者がどのような気持ちで視聴していたのかを発表します。 ※その後、さらに意見をいただいてもよいでしょう。
まとめ	ふりかえり…付属資料2 ・感想発表 ・今後、自分がどのように行動するか発表 ・アンケート	・「発展的なプログラム」を実施した場合は省略できます。 ・付属資料2で、参加者に自発的な学習や行動を促すと効果的です。
	閉会	・今後の予定などを伝え、閉会します。

※ 司会進行は、市町村担当者や地域の防災リーダーがおこないます。

防災リーダー養成講座

活動プログラム4 防災有識者による講習会

プログラム概要

地域のリーダーとして位置づけられている方を対象に防災に関する有識者が講演する講習会です。リーダーには区長が該当するケースも多く、毎年変わる可能性の高いリーダーに講習することになります。



防災有識者の講演を聞く

[ねらい]

- ・まずは、自分たちのすむ町が災害を受けやすい場所であることを認識いただきます。
- ・その上で、地域での防災活動が必要であることに気づき、実際に取組むきっかけとなります。

【実施対象】 区長など、地域のリーダー

【所要時間】 1時間 ※「区長会など」の行事とあわせて実施するとリーダーの負担が軽減できます。

【実施場所】 集落（地区）

■準備物（運営者）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	参加者名簿		
<input type="checkbox"/>	三六災害パネル (必要に応じて)		
<input type="checkbox"/>	液晶プロジェクター		
<input type="checkbox"/>	ノート PC		
<input type="checkbox"/>	スクリーン	配布資料など	
<input type="checkbox"/>	記録用デジカメ	<input type="checkbox"/>	有識者の準備する資料 (必要に応じて)
		<input type="checkbox"/>	アンケート

■参加者持物

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具

[運営のコツ] ～毎年交代する「リーダー」への対応～

- 地域の防災リーダーには、区長が実施することが多いことが想定されます。区長は、毎年交代することが多いため、取組みが「深まらない」と言われることが多いようです。
- しかし、区長が毎年変わるのであれば、毎年、「同じ活動プログラム」を実施することで、防災意識を高めた人材が地域に増えていると理解できます。
- また、地域で行われてきたこれまでの取組みを行政側から紹介することで（あるいは、メディアを活用することで）、「継続して実施することが必要」と感じていただくことも可能になります。

■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
事前	講師の依頼	<ul style="list-style-type: none"> 講師の依頼は、必要に応じて国土交通省天竜川上流河川事務所砂防調査課に問い合わせることができます。 ※詳細については27ページ参照
導入	受付	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて会場にパネルを設置し、参加者の気持ちを高揚させます。
	開会	<ul style="list-style-type: none"> 開催主旨、講師の方の紹介をします。
講習会内容	講師による説明 ◆災害一般知識の共有 三六災害などの災害の概要（被災歴、被災地、被害状況など）や、講師が準備した講演内容について体系的に発表いただき、地域防災力を向上させることが必要であることを講演いただきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害一般知識の説明は、防災有識者や、当該市町村以外の地域に在住の防災技術者から話を聞くことで、「新しい情報」として話を聞いていただければやすくなります。 講師には、予め、次の事項をしっかりと伝えておきます。 *講演会の目的（リーダーに防災知識と危機感、地域防災活動の必要性を認識いただくこと） *講演会への出席者の防災知識や感心の程度、出席者数と大雑把な年齢構成 *講演の時間、質疑応答の時間
	◆質疑応答 講師－参加者で意見交換をします。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題を提起してくる方がおられることもあります。まずは、「話を聞く（言い返さない）」ことで、次のステップにつなげやすくなります。
まとめ	司会者まとめ <ul style="list-style-type: none"> 司会者が講習会全体のまとめをします。 アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> 本日の感想や今後の抱負について、参加者に発言いただきます（数人、指名します）。 参加者が自ら言葉を発することで自らの意識付けになります。
	閉会	<ul style="list-style-type: none"> 今後の予定などを伝え、閉会します。

※ 講師は、防災有識者や当該市町村以外の地域に在住の防災技術者に依頼します。

※ 司会進行は、市町村担当者や地域の防災リーダーがおこないます。

防災リーダー養成講座

活動プログラム5 地域防災講習会

プログラム概要

地域のリーダーとして位置づけられている方を対象に、前段の、防災有識者の講演を聞いたうえで、具体的に、地域で何ができるか、説明をします。また、リーダーがかかえている心配な点などを聞取ります。



具体的な取り組み方法を説明する

[ねらい]

- ・地域防災活動は、あまり難しく考えなくとも実行できることであることを認識いただきます。
- ・「よし、やってみよう！」という気持ちを持っていただき、実際に行動に移していただきます。

【実施対象】 区長など、地域のリーダー

【所要時間】 0.5時間 ※「区長会など」の行事とあわせて実施するとリーダーの負担が軽減できます。

【実施場所】 集落（地区）

■準備物（運営者）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	参加者名簿		
<input type="checkbox"/>	三六災害パネル (必要に応じて)		
<input type="checkbox"/>	液晶プロジェクター		
<input type="checkbox"/>	ノート PC		
<input type="checkbox"/>	スクリーン	配布資料など	
<input type="checkbox"/>	記録用デジカメ	<input type="checkbox"/>	「防災活動の手引き」 (本冊子)

■参加者持物

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具

【運営のコツ】 ～「やる気」をおこしていただくために～

- 防災活動は、一般に、なかなか新たにやろうという気持ちを持ちにくいものです。やろうという気持ちになりにくいことに、「必要性を感じない」「どうやればよいかわからない」ということが主要因と考えられます。
- そこで、まずは、私たちは災害が多発する場所に住んでいること…を繰り返し伝えることで、必要性を持っていただきます。
- 次に、「どうすればよいかわからない」ことに対しては、本手引きでも紹介している演劇DVD 視聴会や集落防災マップづくり、集落防災訓練などの具体的な活動プログラムを示し、難しいことではないことを伝えることで、その心配を少なくすることが期待できます。

■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
導入	受付	・必要に応じて会場にパネルを設置し、参加者の気持ちを高揚させます。
	開会	・開催主旨を説明します。
講習会内容	<p>地域防災活動の方法説明 ……「防災活動の手引き」(本冊子) ◆活動プログラムの紹介</p> <p>地域防災活動の具体的な方法について、手引きをみながら説明します。なるべく、具体的な方法、コツなどを丁寧に説明します。</p> 	<p>・必要に応じて、行政がどのように支援できるか(準備の手伝い、開催の折の指導など)を伝えることで、リーダーの心配を軽減できます。</p>
	<p>◆意見交換</p> <p>講師ー参加者で意見交換をします。</p> 	<p>・問題を提起してくる方がおられることもあります。まずは、「話を聞く(言い返さない)」ことと、丁寧に説明を繰り返すことで、徐々に信頼関係が構築できます。</p> <p>・信頼関係を構築することで、取り組みの具体化に近づけます。</p>
まとめ	<p>ふりかえり</p> <p>・今後、自分がどのように行動するか発表します。</p>	<p>・可能であれば、2~3人の方に、どのようなことが心配か、やってみたくはないか、などを聞いてみます。</p>
	閉会	・詳しいことを聞きたい場合の連絡先を伝え、閉会します。

※ 講習会全体(司会進行、プログラムの紹介)を市町村担当者がおこないます。

[運営のコツ] ~三六災害パネルの活用~

- 会場の出入り口付近や後ろの方に、三六災害の様子を紹介したパネルを設置しておくと、「場の演出」に効果的です。
- 活動プログラムの内容が始まる前や休憩時間などの合間に見ていただくことで、より深い理解を促すとともに、参加者から新たな情報を引き出せることが期待できます。



地域防災ワークショップ ～その1～

活動プログラム6 集落防災マップづくり

プログラム概要

自分たちの住む地区で、これまでに発生した災害を振り返るとともに、自分たちの地区の現況を把握し、災害発生時に備えた防災マップを作成します。



集落の中をみんなで点検

[ねらい]

- ・防災マップを作成し、災害による被害を軽減することを目指します。
- ・マップ作成（ワークショップ）を通じて、地域住民の共通認識を深めます。

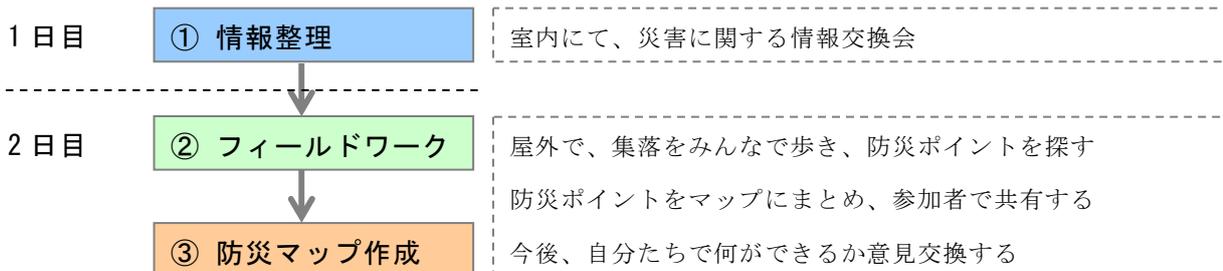
- 【実施対象】 地域住民（10人/班程度）
 【所要時間】 2日間 ※一日に集約することも可能
 【実施場所】 集落（地区）

■準備物（運営者）

準備物		準備物	
1日目（室内）		2日目（屋外+室内）	
<input type="checkbox"/>	参加者名簿	<input type="checkbox"/>	参加者名簿
<input type="checkbox"/>	名札	<input type="checkbox"/>	名札
<input type="checkbox"/>	液晶プロジェクター	<input type="checkbox"/>	クリップボード
<input type="checkbox"/>	ノートPC	<input type="checkbox"/>	集落の地図
<input type="checkbox"/>	スクリーン	<input type="checkbox"/>	マジック
<input type="checkbox"/>	記録用デジカメ	<input type="checkbox"/>	テープ
配布資料など		<input type="checkbox"/>	付箋紙
<input type="checkbox"/>	自治体作成ハザードマップ (作成済みであれば)	<input type="checkbox"/>	模造紙
		<input type="checkbox"/>	救急用具

■参加者持物

持物	
<input type="checkbox"/>	筆記用具
<input type="checkbox"/>	雨具

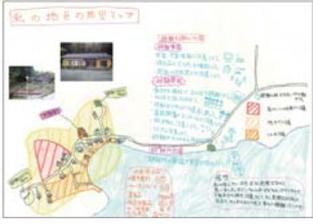


■プログラムの流れ（1日目）

活動内容		ポイント
導入	受付	・配布資料は、あらかじめ机に配布しておきます。
	開会	・当日のスケジュール、要点を説明します。
ワーク	情報整理 ◆過去の災害について振り返る ※運営者による簡単な説明。 	・“自然現象”が、“災害”になる場合の条件を整理します。 ・自分たちの住む地域の特性（地理的、社会的）を確認します。
	◆防災マップに掲載する情報の検討…自治体作成ハザードマップ（作成済みであれば） 	・災害発生を想定し、今の地域が受ける被害を検証します。 ・危険な場所や安全な場所、災害時要援護者のいる世帯など、防災マップに掲載する情報や防災のために地域として把握すべき情報について検討します。 ・自治体で作成したハザードマップがあれば、どのようなところが危険な場所や避難経路として指定してあるか確認します。
まとめ	ふりかえり ・感想発表 ・アンケート	・ワークを通じて感じたこと、考えたことを参加者同士で共有します。
	閉会	・次回ワークショップの案内をします。

※ 司会進行は、市町村担当者や地域の防災リーダーがおこないます。

■プログラムの流れ（2日目）

活動内容		ポイント
導入	受付	<ul style="list-style-type: none"> ・受付時に、クリップボード、地図（ワークシート）を配布します。 ・班分けをします。
	開会	<ul style="list-style-type: none"> ・当日のスケジュール、要点を説明します。
ワーク	<p>フィールドワーク（野外）</p> <p>◆地域の現状把握</p> <p>みんなで地図（A3サイズ）を持って、自分たちの暮らす地域の防災点検をします。</p> <p>気づいたことを地図に記入しながら、地域全体を回ります。</p> 	<p>[抽出ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所：細い道、行き止まりの道、水路、用水路、排水路（詰まっているところ、溢れそうなところ）、崖 など ・安全な場所：広場、公園、オープンスペース、高いところ など ・避難経路 ・避難所など災害時に役に立つ施設、消火栓、公衆トイレ、公衆電話、掲示板、薬局、コンビニ、スーパー など ・官公署・医療機関など、災害救援にかかわる機関・施設 ・災害時要援護者のいる世帯、独居老人宅
	<p>防災マップ作成（室内）</p> <p>◆マップ作成</p> <p>フィールドワークで得た情報を整理し、防災マップを作成します。</p>  <p>◆意見交換</p> <p>みんなで作成した防災マップをもとに、地域の防災について意見交換します。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークで気付いた点を一人一人発表しながら、それを一枚の地図（A0～A1サイズ）にまとめていきます。 ・抽出ポイントを地図に示します。 ・危険度が高いエリアなどを検討し、地図に示します。 <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに防災マップを発表します。 ・防災マップの掲載場所、地域全体への周知について検討します。  <p>防災マップの例</p>
まとめ	<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想発表 ・今後、自分がどのように行動するか発表 ・アンケート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークを通じて感じたこと、今後、自分がどのように行動するかを発表し、参加者同士で共有します。
	閉会	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の予定などを伝え、閉会します。

※ 司会進行は、市町村担当者や地域の防災リーダーがおこないます。

地域防災ワークショップ ～その2～

活動プログラム7 集落防災訓練 -地区の催しと組み合わせた防災訓練-

プログラム概要

防災訓練は、体を動かす内容が多く含まれます。毎年地区で実施する運動会などの地区の催しに、バケツリレーなどの防災訓練の要素を取り込み、楽しみながら訓練します。他にも様々な活動プログラムも取り込みます。



運動会でバケツリレー

[ねらい]

- ・地域での継続的な防災活動につながることを目指します。
- ・実際に災害に遭った際、地域の結束力と防災技術が活かされることが期待できます。

- 【実施対象】 地域住民（10～20人/班×3班以上）
 【所要時間】 15～30分
 【実施場所】 運動場

■準備物（運営者）

準備物		準備物	
<input type="checkbox"/>	バケツ		
<input type="checkbox"/>	水		
<input type="checkbox"/>	的（タライなど）		
<input type="checkbox"/>	景品		
<input type="checkbox"/>	表彰状		

■参加者持物

持物	
<input type="checkbox"/>	運動のできる服装
<input type="checkbox"/>	帽子

[運営のコツ] ～ムラの行事・組織との連携～

- 田舎の集落であっても、皆が一同に集ったり、新たな行事に取組んだりすることはかなりハードルが高いことです。
- 防災訓練を新たに取組むことはなかなか困難です。そこで、運動会や年に数度の地区の清掃の折や公民館行事などの既往の行事や、町づくりや社会福祉団体などの既往の団体などと連携することで、「細く長く」継続することが期待できます。



■プログラムの流れ

活動内容		ポイント
導入	受付	・念のため、健康状態をチェックします。
	開会	・ルールを説明します。
ワーク	バケツリレー ◆ チーム編成し、チームごとに一列に並ぶ ・集落・班など、運動会の組み分けに従いチームを編成します。 ◆ 各チームにバケツを5個準備 ・チームごとに、同じ数量のバケツを持ちます。 ◆ 合図とともに、バケツリレーを開始 ・チームごとに速さを競います。 	・チーム編成の際、年齢層を指定するなど、満遍なく参加できるようにします。 ・あらかじめ、スタート地点とゴール地点に大き目のタライを設置し、スタート地点の容器に水を入れておきます。 ・地面がぬれても良い場所では、ゴール地点に的を複数設置し、それを早く倒したほうが勝ち、というゲームにもできます。 ・勝ったチームをたたえることで、ゲーム要素が高まり、楽しく、継続する気持ちを高めます。 ・景品には、使用したバケツや防災グッズをあてます。
	◆表彰 勝ったチームを表彰します。	
まとめ	ふりかえり	・司会者が、勝った感想、負けた原因などを楽しく聞いてまわります。
	閉会	・今後の予定などを伝え、閉会します。

[運営のコツ] ～「防災訓練」との関連付け～

- この活動プログラムでは、単純な「イベント」に終えないような誘導が肝要です。
- ワーク（実質的な活動部分）が終了した時点で、司会者が参加者に話を聞いて回り、どのような難しさがあったか、また、新たな発見はあったか、などを会場に集った方全体にフィードバックします。その上で、災害などとの関連付けについての話を挿入し、万一の防災時には、力をあわせて取り組むことを呼びかけます。

※バケツリレー以外の種目

① 土嚢積み上げ競争

- [ねらい] ◆ 水害が発生する際に積み上げる「土嚢」を早くつくるゲームで、土嚢のつくり方、積み上げ方を競技参加者、応援席参加者も合わせて学べます。
- [ワーク] ◆ スタート地点に砂山を設け、合図とともに土嚢を作ってゴールまで運搬し、さらに積み上げます。
◆ 規定の高さに早く積み上げたチームが勝ちとなります。
◆ ゲームが終わっても、チーム全員が力をあわせて退場門まで積み上げた土嚢と道具を持ち帰ります。

② 炊き出し競争

- [ねらい] ◆ 災害時に必要になるかもしれない「炊き出し」をゲーム化することで、炊き出しをする際の手順、必要な道具、量などを確認し、万への準備のきっかけとします。
- [ワーク] ◆ 「おにぎり」「豚汁」など、炊き出しでつくる献立を決め、道具・下ごしらえは予め準備しておきます。
◆ 合図とともに決められた献立を作ります（例：おにぎりを規定の数を早く握ったチームが勝ち）。

※「競争」でなくとも、子ども会やその他団体の行事でのイベントとして、災害時につくる炊き出しを意識した献立づくりを研究する会などの発展も考えられます。

③ けが人運搬競争

- [ねらい] ◆ 災害発生時に、災害弱者を速やかに避難させたり、けが人が発生した際の応急手当や運搬がスムーズにできたりするようになります。
- [ワーク] ◆ けが人に見立てた人（または人形）を正しく手当てし、落とさないように早く運搬したチームが勝ちとなります。

※AEDを使うなど、救急用具を使った訓練と競争の組合せも考えられます。

④ 情報伝達競争

- [ねらい] ◆ 災害発生時の情報伝達について、正しく、速やかに実行できるよう訓練します。
- [ワーク] ◆ 参加者が一列に並び、スタートに伝言メモを見せ、その内容を早く、正確に伝えることが出来たチームが勝ちとなります。

(5) 活動のアピール

地域での取り組みは、一般に、一度だけの実行では継続につながりません。継続のためには、行政と地域との連携した取り組みを継続することが効果的であると思われる。その際、さらに、地域での誇りや達成感を得るための方法として、マスコミなどのメディアへの取り上げが考えられます。

天竜川上流域での取り組みについて、次のような情報発信メディアがあげられます。

■ 映像による情報発信

テレビ（一般放送）

- ・NHK 長野総合
- ・NHK 長野教育
- ・TSB テレビ信州
- ・SBC 信越放送
- ・NBS 長野放送
- ・ABN 長野朝日放送

テレビ（地元 CATV）

- ・伊那ケーブルテレビジョン
- ・飯田ケーブルテレビ
- ・エコシティー・駒ヶ岳
- ・阿智村情報化事業サービス
- ・大鹿村 CATV 施設
- ・高森町ケーブルテレビ
- ・チャンネル・ユー（松川町）
- ・とよおか放送ネットワーク（豊丘村）
- ・ふれあいネットワーク長谷
- ・泰阜村コミュニケーションネットワーク
- ・36ch ほたるチャンネル
- ・下條村ケーブルテレビ
- ・阿南町 CATV
- ・根羽村 CATV
- ・平谷村 CATV
- ・売木村 CATV
- ・天龍村 CATV

■ 紙面による情報発信

新聞

- ・信濃毎日新聞
- ・長野日報
- ・南信州新聞
- ・中日新聞
- ・信州日報

広報誌

- ・市町村広報誌（各市町村）
- ・かわらんべ（発行：天竜川総合学習館 かわらんべ）

フリーペーパー ・ 月刊タウン情報いいだ

■ ラジオによる情報発信

ラジオ

- ・ AM SBC 信越放送
- ・ FM 長野
- ・ i ステーション (いいだエフエム)
- ・ NHK FM 長野

■ インターネットによる情報発信

天竜川上流河川事務所 <http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/index.htm>
 サイトの内容：
 災害・防災情報、天竜川利用案内など
 運営：
 国土交通省 天竜川上流河川事務所

かわらんべ <http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/kawaranbe/>
 サイトの内容：
 天竜川総合学習館 かわらんべの利用案内、活動報告など
 運営：
 飯田市、天竜川上流河川事務所

長野県建設部砂防課 <http://www.pref.nagano.lg.jp/doboku/sabo/kashokai.htm>
 サイトの内容：
 土砂災害に対する地域防災の取り組みの紹介など
 運営：
 長野県

伊那MY ウェブニュース <http://inamai.com/>
 サイトの内容 (ニュース系)：
 行政・経済・教育・福祉・文化など
 運営：
 伊那ケーブルテレビジョン、(有)キャリコ、チームゴーシュ

信州ライブオン <http://www.shinshu-liveon.jp/>
 サイトの内容 (タウン情報系)：
 生活関連情報、イベント情報など
 運営：
 信濃毎日新聞社

(6) 活動を円滑に進めるための情報・資料

1) 講師などの問合せ先

活動プログラムを実施する際、特に、災害や防災に関する専門的な内容について研修会などを企画する際、専門分野の研究者や技術者の支援を受けることで、スムーズに運営できることが期待できます。また、災害座談会を実施する際には、災害についての語りをしてくださる講師の調整を要します。

講師などを希望する際、下の連絡先に問合せることで、講師などの紹介を受けることが可能です。

■ 国土交通省天竜川上流河川事務所砂防調査課 駒ヶ根市上穂南7番10号

連絡先 (TEL) : 0265-81-6417

※ 講師問合せ時の留意点

講師について問い合わせる際は、次の事項に留意を要します。講師は、あくまでも情報伝達者であり、当日の運営は主催者にあることを認識し、講師にまかせきりにしないよう留意が必要です。講師は他の地域でも講師として活動しているケースが多いことから、講師への事務負担や日程の負担を減らすことも検討を要します。

[講師への出講依頼時の留意点]

- 活動プログラムのねらい、実施内容を固めておくこと。
- 日程に余裕をもち、講師との日程調整は可能にしておくこと。実施主体者の都合で日程を決めず、講師の都合を優先すること。

※ 災害体験者への講師依頼時留意点

災害体験者の精神的な苦痛は、現在でも癒えているわけではありません。座談会での登壇を依頼する際には、次の点に十分留意し、直接訪問するなど丁寧に依頼対応することが重要です。

[災害体験者登壇依頼時の留意点]

- 開催趣旨、開催内容を正確に、丁寧にご案内する。
- 実施日の1か月前、1週間前、前日…など、時折準備状況などをお伝えする。
- マスコミなどが入る際には、事前に、その旨を伝え、了解を得る（顔写真、氏名の露出の可否を聞いておく）。さらに、ビデオ撮影をし、他に転用する際にはそのこともご了解いただいております。

その他、専門の講師、災害体験者に出講・登壇いただいた後は、お礼の連絡（電話、電子メール、手紙など）をすることも心がけたいです。その際、参加者からの声（アンケートの結果概要など）もお伝えすると、お話いただいた講師・体験者とも安心していただけることと、次回の依頼もしやすくなります。

2) 防災学習ができる施設

天竜川上流域には、防災に関する学習ができる施設があります。施設によっては、現地での説明を依頼できるところもあり、地域の防災学習に活用できます。

■ 駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム

<http://field-museum.kankou-komagane.com/>

中央アルプスの豊かな自然に育まれた駒ヶ根高原一帯の自然、人々が築きあげた文化、郷土を守る砂防設備により整備が進んだ土地利用、景観ビューポイントなどの地域資源全体を野外展示物と見立てた青空博物館。地域活性化と、地域の安全・安心のための防災力を向上させることを目的に運営されている。

[利用]

ガイド料金 : 無料
 開催期間 : 予約があれば随時開催
 時 間 : 約 2～3 時間程度
 受入可能人数 : ガイド1名につき1名～15名程度
 連絡先 (TEL) : 0265-81-7700 (駒ヶ根観光協会)

■ 大鹿村中央構造線博物館

下伊那郡大鹿村大河原 988

<http://www.osk.janis.or.jp/~mtl-muse/index.htm>

長野県と静岡県の間境、南アルプスの主峰赤石岳の山麓にある。中央構造線のほぼ真上にあり、中央構造線と大鹿村の岩石標本が中心に展示されている。天竜川上流域の災害のメカニズムについて、標本やジオラマを見ながら学習できる。

[利用]

開館時間 : 9 : 30～16 : 30
 休館日 : 月曜・火曜
 入館料 : 大人 500 円、中高校生 200 円、小学生無料 (大鹿村民、団体は特別料金)
 連絡先 (TEL) : 0265-39-2205

■ 天竜川総合学習館 かわらんべ

飯田市川路 7674

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/kawaranbe/>

「天竜川の学習」「地域コミュニティ」「防災の拠点」という3本の柱をもとに、講座や体験学習が開講され、地域の防災の拠点の役割を担っている。館内には様々な展示物や図書室、貸室可能な「総合学習室」があり、無料で閲覧・利用できる。

[利用]

開館時間 : 9 : 00～17 : 00 (貸室は 21:00 まで可能)
 休館日 : 月曜・祝日の翌日
 入館料 : 無料
 連絡先 (TEL) : 0265-27-6115

3) インターネット情報

天竜川上流域における防災関連の情報は、インターネットからも豊富に得ることができます。その中でも、天竜川上流域を始めとする長野県内での防災に関する資料が充実しているホームページを下にまとめました。

■ 天竜川上流河川事務所

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/index.htm>

天竜川上流域のこれまでの災害やその後の取組みなどに関する情報を提供している。ダウンロードして印刷できる資料も豊富にそろっており、災害のメカニズムや被害状況、災害後の取組みなどの情報を包括的に得ることができる。

■ 駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム

<http://field-museum.kankou-komagane.com/>

「駒ヶ根市・宮田村に伝わる 災害おはなしマップ」をはじめ、防災学習に役立つ資料が閲覧・ダウンロードできる。ミュージアムでのガイドツアーの募集もしていることがある。

■ 天竜川総合学習館 かわらんべ

<http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/kawaranbe/>

天竜川の防災拠点・かわらんべが備えている主な設備や、かわらんべが実施している防災講座などを紹介している。

■ 長野県建設部砂防課

<http://www.pref.nagano.lg.jp/doboku/sabo/kashokai.htm>

長野県下の土砂災害に関する情報を提供している。県内各地での土砂災害の様子や取組みなどが俯瞰できる。地域防災に関するソフトな取組みの先進的な取組みの紹介もある。

4) 伊那谷の災害や防災に関する図書などの資料

伊那谷には、災害や防災に関する資料が多数あります。その中で、一般に入手しやすいもの、また、閲覧しやすいものなどをリストアップしました。

■伊那谷の災害や防災に関する図書・文献一覧

No.	図書・文献のタイトル	発行年	編集者・著者・発行元
1	復興の記録(36.6 梅雨前線豪雨災害)	昭和 39 年	[編集・発行]伊那谷 36 災害復興感謝祭事務局
2	災害復旧の記録 (昭和 36 年 6 月梅雨前線豪雨)	昭和 40 年	[編集・発行]長野県土木部
3	四徳誌	昭和 55 年	[著者]小松谷雄 [発行元] 四徳人会
4	三十年のあゆみ	昭和 55 年	[編集]天竜川上流工事事務所、社 団法人中部建設協会 [発行元]社団法人中部建設協会
5	36 災害 20 周年記念 災害の記録	昭和 56 年	[編集・発行]高森町
6	語り継ぐ災害の記録 伊那谷災害記念特集号	昭和 56 年	[編者]昭和 36 年災害 20 周年記念 行事実行委員会出版部会
7	続・濁流の子 伊那谷昭和 36 年災害をのりこえて	平成 5 年	[編集]砂防広報センター、株式会社 インタレスト [発行元]天竜川上流工事事務所
8	天竜川の災害伝説	平成 5 年	[著者]笹本正治 [発行元]天竜川上流工事事務所
9	三六災害 40 周年 伊那谷の土石流と満水	平成 13 年	[編集]松島信幸、亀田武巳、村松武 [発行元]伊那谷自然友の会・飯田 市美術博物館
10	天竜川サイエンス -天竜川上流域の変化は、何を語る-	平成 18 年	[企画・編集]天竜川サイエンス編集 委員会 [発行元]信濃毎日新聞社
11	「語りつぐ36災害」 体験者インタビュー集 大西山崩壊と大鹿村の復興	平成 18 年	[編集]特定非営利活動法人 砂防 センター [発行元]天竜川上流河川事務所
12	天竜川上流域 災害教訓伝承手法 実践の手引きと実例(案) http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/flood/densho/tebiki.html	平成 21 年	[発行元]天竜川上流域災害教訓伝 承手法検討会
13	わたしたちの暮らしと伊那谷 郷土を守る砂防事業	不明	[製作](社)中部建設協会 [発行元]天竜川上流工事事務所
14	明日に伝える三六災害 川路・龍江の水害体験談と子供達の取り組み (語りつぐ天竜川シリーズ第 60 巻)	平成 18 年	[編集]ユニプリント(株) [発行・企画]天竜川上流河川事務 所

5) 関係機関連絡先

天竜川上流域の防災の取り組みに関する問合せ一覧を下表にまとめました。

表 防災の取り組みに関する関係機関

関係機関		担当部署	電話番号	FAX	
国土交通省 天竜川上流河川事務所		砂防調査課	0265-81-6417	0265-81-6420	
長野県	建設部（県庁）	砂防課	026-235-7316	026-233-4029	
	伊那建設事務所	整備課	0265-76-6848	0265-76-6850	
	上伊那地方事務所	地域政策課	0265-76-6803	0265-76-6804	
	飯田建設事務所	整備課	0265-53-0451	0265-24-5412	
	下伊那地方事務所	地域政策課	0265-53-0402	0265-53-0475	
市町村	上伊那	伊那市	危機管理課	0265-78-4111	0265-78-8100
		駒ヶ根市	庶務課	0265-83-2111	0265-83-4348
		辰野町	総務課	0266-41-1111	0266-41-3976
		箕輪町	総務課	0265-79-3111	0265-79-0230
		南箕輪村	総務課	0265-72-2104	0265-73-9799
		宮田村	総務課	0265-85-3181	0265-85-4725
		飯島町	総務課	0265-86-3111	0265-86-4395
		中川村	総務課	0265-88-3001	0265-88-3890
	下伊那	飯田市	危機管理交通安全対策室	0265-22-4511	0265-24-9316
		松川町	総務課	0265-36-3111	0265-36-5091
		高森町	総務課	0265-35-9402	0265-35-8294
		阿南町	総務課	0260-22-2141	0260-22-2576
		阿智村	総務課	0265-43-2220	0265-43-3940
		平谷村	総務課	0265-48-2211	0265-48-2212
		根羽村	振興課	0265-49-2111	0265-49-2277
		下條村	総務課	0260-27-2311	0260-27-3536
		売木村	産業課	0260-28-2311	0260-28-2135
		天龍村	総務課	0260-32-2001	0260-32-2525
		泰阜村	総務課	0260-26-2111	0260-26-2553
		喬木村	総務課	0265-33-2001	0265-33-3679
		豊丘村	総務課	0265-35-9050	0265-35-9065
		大鹿村	総務課	0265-39-2001	0265-39-2269